



先端技術体験 レポート



令和3年12月11日(土)
福島県教育委員会

スポット①



震災遺構 請戸小学校



メンバーの声

- 体育館には、卒業式の準備がされていた。見覚えのある景色がこんなに壊れてしまうのだと思い、改めて日頃の訓練の大切さが分かった。(中2女子)
- 請戸小の人が避難できたのは、先生方の素早い判断のおかげだったのがすごいと思いました。津波の恐ろしさを改めて知りました。(中2男子)
- 避難をするための防災が避難しない理由にもなってしまふことが一番驚いた。津波が予想より大きかったこと、津波はここまで来ないと考えていたことが原因だろう。そういうことがあってはならないと思う。(中2男子)
- 地震と津波による被害の爪痕の大きさが今もそのまま残っていて、当時の恐ろしさがリアルに伝わってきました。(中2男子)

スポット②



語り部体験 (バス移動中)



メンバーの声

- 一番印象に残ったのは、13~15mの津波が襲ってきたということです。大体マンションの3階ぐらいの高さの波が襲ってくると考えると、どれだけ被害が大きかったかを改めて知りました。(中2男子)
- 外を見ると、屋根がついておらず半壊している家をいくつか見ました。震災から10年経っていても、残っていることに驚きました。復興の状況についてあまり分かっていなかったと実感しました。(中2男子)
- 請戸地区の被害状況や被災者の捜索の時の大変さなど、被災した時の大変さをじかに聞いて学んだ。語り部の方の話していることは、是非、同級生にも伝えたいと思った。(中1男子)

廃炉資料館



メンバーの声

- 発電所の壁の厚さを実際に見て、この厚さをも溶かしてしまう核燃料は本当に恐ろしいなと感じた。一度起きてしまったものは、もう戻せないが、二度とこのような事故が起こらないようにしてほしい。(中2女子)
- 原子力発電所の仕組みや事故の原因について、今まで知らず知ろうともしませんでした。しかし、今回の技術体験で、原発の原因について知ることができ、初めて原発について意識するようになりました。(中2男子)
- 第1号機から第4号機まで、爆発までの過程が全て異なっていたことに、とても驚きました。事故当時のことがよくわかりました。(中2男子)
- 専門的な知識を話されても、完全に理解できるわけではないが、だからこそ今後も考え続けていきたい。放射性物質の被害は未だに全て復興していないため、今後も注意するべきだと思う。(中2男子)

スポット④



楢葉遠隔技術開発センター



メンバーの声

- ロボコンを見て現場で使うロボットの条件の厳しさを感じた。現場での操作性など様々な面を考えてロボットを適した形にしていくのは、とても時間や労力がかかる仕事だと思う。自分もいつかは携わってみたい。(中1男子)
- 面白い施設もたくさんあったので、また来てみたいと思った。いつか自分もこのロボコンに出てみたいと思った。(中2男子)
- 日本最大のシートシャッターや、たくさんの実験施設を見ることができてとても面白かった。原発事故が引き起こしたことは国の問題にまでなっていたというのを実感することができた。何年か後、自分があの場所にいるかどうかは分からないが、将来いろんな形で関わられたらいいなと思う。(中2男子)
- 本物のロボットが動く様子を間近で見学するのはとても迫力がありました。また、ロボット試験用水槽や、モックアップ階段、モーションキャプチャーなどの施設、20mを超えるシャッターにも驚きました。(中2男子)

また会おう！
未来を担うトップリーダー！！

最後に1日の
感想を紹介します。



- 今回は原発について、被害を受けた施設や町の人、原因を作ってしまった人、そして現状を解決しようとする人など、たくさんの視点で見ることができた。これからも、今日の体験を忘れずに物事を多角的に見られるようになりたい。（中2男子）
- この体験をするまでは親から震災の話聞いても、どこか他人ごとのように感じていたが、この体験を通して震災という出来事と自分との距離がグッと縮まった気がする。今の被災地の様子を見たことで、自分も県民として復興に必要な問題を解決していかなくちゃいけないと思った。（中1男子）
- 廃炉にしていくためのロボットが、大活躍していて最先端だなと思いました。また、ロボコンに高校生が一生懸命に取り組んでいるのを見て、廃炉に関するロボットに少しでもいいから関わってみたいなと思いました。（中2男子）
- 自分は震災の時のことは覚えていないので、よりどんな地震だったのか分かった。原発のことはニュースで色々知ってはいたが、仕組みや廃炉について知ることができたので、とても良い機会になった。将来、福島に関わる仕事がしたい。（中2男子）
- 会津では東日本大震災の被害が少なく、震災の怖さについてあまり実感がなく、テレビで流れていてもそんなに凄かったんだ程度で、あまり興味を持っていませんでした。しかし、先端技術体験を通して、東日本大震災の被害の甚大さを改めて知り、また同じような震災が起こった時のために、しっかりと対策すべきだと思いました。（中2男子）
- 1日を通して、震災復興への興味や関心が高まり、自分も将来震災復興に携わっていききたい気持ちが強くなりました。（中2男子）
- 震災については分かっているつもりだったけれど、もっと詳しく多くの事を学べました。自分で気になったことを調べたり、たくさんの方に興味を持ったりすることが大切だとわかりました。震災に対する考え方が変わりました。（中2男子）
- 今まであまり身近でなかった被災の状況と、復興の現場をリアルに体験することができて、大きな学びになりました。（中2女子）
- 震災の恐ろしさがよくわかった。参加する前は、津波が来たんだとか、原子力発電所で事故があったんだくらいの理解だった。しかし、参加して本当に恐ろしいものなんだということがよくわかった。震災は重い話題なので日常生活で話すのは疎遠されがちで、普段、話すのはタブー視する人もいるかもしれない。しかし、今回、先端技術体験に参加して、だからこそ震災について話していかないといけないし、封じてはいけないと感じた。（中2女子）
- 3歳から4歳で記憶もおぼろげだが、忘れてはいけないし、風化させてはいけない。これからも復興は続いていくだろうから、一福島県民として関わり続けていきたい。（中2男子）

